

# KANSAIGAI DAI UNIVERSITY VISION

関西外国語大学 ビジョン・中期計画〈ビジョン・基本戦略部分〉

GO FOR *Kansai Gaidai University!*  
語学の、その先へ。

表紙デザインは、「今までの常識を変え、進化する」という本学の決意をシンプルかつよく表現しました。

関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 <https://www.kansai-gaidai.ac.jp/>

[中宮キャンパス] 〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1 TEL:072-805-2801(代表)

[御殿山キャンパス・グローバルタウン] 〒573-1008 大阪府枚方市御殿山南町6-1 TEL:072-805-2701(代表)

※ 関西外大は学内全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いします。



 関西外大  
KANSAI GAIDAI UNIVERSITY



## 理事長あいさつ

関西外国語大学はこのたび、「関西外国語大学ビジョン・中期計画」を策定しました。少子化が進み、2040年には18歳人口が現在の7割程度の88万人に減少すると推計されています。厳しい時代を迎え、大学は教育の質を保证する改革や、技術の進歩による社会の変化に対応できる人材の育成を求められています。大学間競争の激化も予想されるなか、ビジョンは、大学の今後の針路を定めたものです。

今回のビジョンの根底には、10年前に策定した中・長期ビジョン「関西外国語大学大ルネサンス2009」と、それを具体化した「外大ビジョン・6つの柱」があります。この中・長期ビジョンに基づき、本学は過去10年間、国際交流の充実をめぐるともに、英語キャリア学部の開設、国際言語学部の英語国際学部への改組、御殿山キャンパス・グローバルタウンの開学などの成果を上げてきました。新ビジョンは、この成果を継承し、発展させるものです。

近い将来、「学生が大学を選ぶ」時代が到来することでしょう。「学生に選んでもらえる大学」であるためには、各大学がブランド力の向上と教育の質の向上に努めなければなりません。関西外大は終戦直後の谷本英学院から出発し、常に「学生ファースト」の立場を貫き、国際交流を核とした人材の育成に取り組んでまいりました。新ビジョンが、本学の伝統と「ルネサンス2009」で得た成果を踏まえ、新時代の大学へと導いていくことを期待しています。

2019年9月  
学校法人関西外国語大学 理事長

谷本榮子



## 学長あいさつ

「関西外国語大学ビジョン・中期計画」は、高等教育を取り巻く環境が厳しさを増すなか、これからの関西外大のあるべき姿を示したものです。10年前に策定した「関西外国語大学大ルネサンス2009」の精神を引き継ぎ、創立80周年（2025年）から2030年を見据えて、本学の躍進をめざします。

ビジョンの中核をなすのは「Kansai Gakuin University」への進化です。早くから国際交流に取り組んできた本学は、米欧を中心に海外では「Kansai Gakuin University」という大学として認知されています。今後は、外国語大学の殻を破り、単科大学という意識に縛られない新しい大学へと生まれ変わります。目標とするのは、高度な語学力をもち、国内外で活躍できるグローバル人材の育成です。

この目標に向けて、リベラルアーツ教育を重点化します。本学での学びを通して、豊かな言語力と、批判的・独創的な精神を備え、新しいものや考えを生み出すことのできる学生が育つことを期待します。人工知能（AI）など技術革新が急速に進み、予測が難しい時代にあって、世界中どこへ行っても生きていける“遅しく品格ある人物”です。

「Kansai Gakuin University」への進化には、全教職員の意識改革が不可欠です。この概念の浸透を図り、本学のブランド力向上のため「オール Kansai Gakuin University」で取り組んでいきます。

2019年9月  
関西外国語大学 学長

谷本英子

## 策定の経緯および趣旨

本学では、2009年に「関西外国語大学大ルネサンス2009」を策定し、かつての西欧のルネサンスに倣い、清新で闊達な機運に満ちた大学づくりをめざしてきた。構想の中核として「外大ビジョン・6つの柱」を据え、建学の理念を現代的視点から再解釈して具体的に明示し、課題と目標を示した。このビジョンにのっとり、「英語キャリア学部」新設、「英語キャリア学科小学校教員コース」開設、国際言語学部を全面改組し学研都市キャンパスに「英語国際学部」設置、また施設面では「ICC（インターナショナル・コミュニケーション・センター）」および7号館（1階・地階にキャリアセンター）竣工など、種々の政策を推進した。また、本学創立70周年記念事業の一環として、2015年からキャンパス構想を進め、2018年4月には、御殿山キャンパス・グローバルタウンを開設するなど、多くの成果を残した。

この「関西外国語大学大ルネサンス2009」を受け継ぎ、次代に

向けさらに発展させるために、本学創立80周年（2025年）、さらには、10年後の2030年を視野に入れ、新たに「関西外国語大学ビジョン・中期計画」を策定した。文部科学省中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」にも記されているとおり、18歳人口は現在の120万人から88万人へと大幅に減少し、少子高齢社会がますます加速する。また、AI、ビッグデータを駆使したICT社会、問題解決と未来創造の視点を兼ね備えた新たな成長モデルであるSociety 5.0などの社会背景により、高等教育を取り巻く環境がますます厳しくなる。

今回の「関西外国語大学ビジョン・中期計画」策定は、このような厳しい状況に鑑みて、本学の特性を活かした「突き抜けた」次の一手、「一線を画したブランド力」、「オール Kansai Gakuin University」を徹底推進する組織マネジメント力を探求し、新たな躍進を図るものである。



## Kansai Gaidai Universityへの進化

外国語大学からの脱却。本学が特に意識するグローバル人材(※)、すなわち、国内のみならず海外でも活躍できる高度国際職業人を育成するために、幅広いリベラルアーツ教育を重点化する。

今後は、総合大学、他外国語大学と一線を画すUniversityへと変貌する。時代と社会の要請に応えていく実学教育の

実践拠点とし、地球規模で起こる社会変革・多様化に即した社会創造の旗手としての機能・役割を追究する。

※高度な語学力を有し、異なる国や文化、民族、歴史、宗教への洞察力と、異なる価値観への寛容さを持ち、客観的・論理的思考力を身につけ、「コミュニケーション」「ネゴシエーション」「ファシリテーション」の力を持った人材。

<めざす世界観>

### 「関西外大」ブランドの確立

変幻自在の人間学 = 時代に即応した実学を志向する  
リベラルアーツ教育の関西外大 (Kansai Gaidai University) へ

学生の個性を活かす  
オンリーワンの国際教育と  
多様な留学

”どこでも生きていける”  
”遅しく品格ある人物”の育成

社会貢献・連携

「オールKansai Gaidai」という考え方を徹底した組織運営

<現 状>

外国語教育を中心とした関西にある外大として認知されている

## >> どこでも生きていける“遅しく品格ある人物”の育成

ICTなどの技術革新により、情報は瞬時に世界を駆け巡り、世界はより身近になっている。こうした情報社会において、政治、経済をはじめとし、企業の活動など、あらゆる分野において、自国で完結できることは、皆無と言ってよいほどである。世界中で対立や争いが絶えずある中、各国・国民は、ますます緊密な関係を保ちながら、バランスに配慮した判断に基づき、共存する道を探ることになる。

本学は、世界のこのような複雑な状況下において、どのような環境でも生き抜く力を擁し、語学力修得の上にグローバル力を培った「遅しく品格ある人物」を世に送る努力を重ねる。言葉を換えれば、建学の理念で謳っているとおり、実学を身につけ、自律して、どこでも生きていく智慧をもった「遅しさ」、グローバルに通用する豊かな教養をそなえた「品格」ある人物を育てる。

## >> 学生の個性を活かすオンリーワンの国際教育と多様な留学

本学の国際交流は、欧米を中心とする海外協定大学の拡充、多彩な留学プログラムの増設などにより、先進的な役割を果たしてきた。専門留学、2カ国留学、語学&インターンシップ留学など、学部の教育目的に沿った留学ができるよう、他大学に類がない高度なプログラムを準備している。

これらのプログラムをさらに有効に機能させ、オンリーワンの国際教育、さまざまな国際交流を通じて真の国際人を育成する。単位取得を伴う質の高い留学は、本学が長年にわたり

培ってきた成果であり、質・量ともに他校の追随を許さない、ますます強固なものとしつつ、専門分野を英語で学ぶ留学を可能にする Super IES プログラムをはじめ、多様な学生それぞれが自身の目的に合った留学ができるようなシステムを検討していく。併せて、留学前、留学中、留学後の教育、支援を充実させるとともに、御殿山キャンパス・グローバルタウンに新設された「GLOBAL COMMONS 結-YUI-」を活用した「学・食・住」環境における学内留学教育を提供する。

## >> 「オールKansai Gaidai」という考え方を徹底した組織運営

本学が力強く発展してきた源泉は、トップのリーダーシップ、それに基づく意思決定の速さ、および、教職員の献身的でひたむきな業務姿勢である。これをさらに発展させるために、「トップのリーダーシップの強さ」と、それを支える「組織性」があいまった、将来に向けて継続性のある、「しなやかで品格ある組織」をめざす。

経営部門と教学部門の協力態勢のもとに、各学部・学科、大学院、および短期大学部が、個々の魅力、良さをとおおいに活かしていきながらも、「オールKansai Gaidai」として「チームとしての強さ」を発揮していく。事務組織についても、縦割りの部分最適に陥らず、各部署が、自律しながらも、常に

全学としてのあり方を意識して、「全体最適」を徹底する。そのために、事務職員の業務遂行に必要な総合的行政能力を高める。

もっとも重要なことは、学生からの視線を大切にすることである。あらゆる事柄に対し、学生への支援が行き届くよう一層努力する。文部科学省中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」にあるように、18歳人口が、現在の120万人から、2040年には88万人(現在規模の74%)へと大きく減少し、高等教育を取り巻く環境がますます厳しくなる中、学生から「選ばれる大学」であり続け、社会からも高い評価を得ることができるよう、さらに発展させる。

## >> 社会貢献・連携

「大阪・関西万博」、「関西IR」などにより、大阪を中心とする関西圏は、世界的な注目を集めている。こうした中、本学は、グローバル人材として将来を担うことが可能な受け入れ留学生・在学生などの人的資源や、教育研究資源を有効活用し、関西、ひいては日本の国際的プレゼンスの向上に寄与していく。企業や近隣の教育委員会等と連携し、地元をはじめとして

広く社会に貢献する。特に、企業の内なる側からの国際化、地域の国際化といった側面において、本学と対象組織間での人的協力、企業および初等・中等教育現場における海外留学生、在学生のインターンシップ派遣、地域住民に対して各種催しの公開等を積極的に展開していくことにより、先導的役割を果たしていく。

## 基本戦略

### 1. 新たな「Kansai Gaidai University」の追求・共有・浸透からブランディングへ

- (1)「Kansai Gaidai Universityへの進化」を、向こう10年のビジョンを実現化する基本戦略の中核とし、全学一致の旗印・象徴・合言葉として位置づける。
- (2)これまでの「外国語大学＝単科大学」意識によるニッチな市場志向や、総合大学との安易な競合志向とは決別し、本学教職員自らがKansai Gaidai Universityという考え方を追求・共有・浸透する仕組みづくりに努め、意識改革につなげる。
- (3)教職員の意識変化を対外的な本学ブランド力向上のエンジンとして機能させつつ、中期計画や年次計画の末端にまでKansai Gaidai Universityの浸透を図り、戦略的広報の推進によって、ブランディングの構築をめざす。

### 2. 「変幻自在の人間学」＝「時代に即応した『実学』」プログラムの再構築

Kansai Gaidai Universityという概念を支えるのが「変幻自在の人間学(注1)」を志向する「リベラルアーツ(＝自由人たるべく有する知の技法であり、人生を創造的に生きるための拠り所となる教養)教育であり、その精髓は、時代の精神・息吹を柔軟に反映させながら、豊かな言語力(注2)を背景に、クリティカルかつクリエイティブに物事に取り組み、新たなものを創出する力を育むところにある。

- (1)人文科学、社会科学、自然科学、芸術学を自由に横断し、既成の分断的な学問体系にとらわれない統合的、総合的な思考方法を身につけ、自己の専門性の構築へとつなげる。
- (2)自己を磨く力すなわち自己教育力、自己を絶えず発展させる力すなわち自己成長力、そして自己のキャリアを創造的に創り出すキャリア形成力を育成する。
- (3)絶えず変わりゆく世の動きを俯瞰的に見つけ、物事の本質を論理的、客観的に突き止めて、積極的に取り組むべき課題を選別する力を育成する。
- (4)異文化をクリティカルに横断し、グローバル化の時代において、異なる国や文化、民族、歴史、宗教への洞察力和、異なる価値観への寛容さを醸成し、卓越したコミュニケーション力を身につける。
- (5)自己と他者の有機的な相互進化というリベラルアーツの精神にのっとった社会的貢献への取り組みをめざす。

- (6) 社会の構成員としての人間力、付加価値、キャリアを身につけさせ、どのような状況にあっても、自律して、逞しく生きていくことが可能な学生を世に送る。

注1:「建学の理念」に謳われる本学開学以来の「実学」は、「人間の根本的あり方」を問う精神、つまり「人間学」の精神を根底に据え、時代時代の精神・息吹に呼応して、各時代の要請を踏まえた最適なものを教育内容として提供してきた。そのありようを、ここでは「変幻自在の人間学」と呼んでいる。注2:リベラルアーツ教育の根幹をなすのが言語力の3つの柱(文法[＝文語、口語を問わず言語を理解する力]と、レトリック[＝表現力]と、論理学[＝論理的・批判的思考力])の育成である。この場合の言語とは、母語、外国語のいずれも含む。

### 3. 入試面、教学面、就職面を全学一体で躍進させる

- (1)学業成績、人間性両面で質の高い学生を確保できる長期的視野に立つ入試制度。
  - ① 2021年1月から実施の「大学入学共通テスト」への対応と同時に、質の高い学生の確保に向けた、入試の方法、内容とする。
  - ② 他大学と競合する受験生を確保するとともに、さらなる掘り起こしのために、入試英語の出題形式において総合大学等との協調も視野に入れる。
  - ③ グローバル人材育成において先進的な取り組みを行っている高等学校との連携強化など、時代に即応した入試制度への取り組みを視野に入れる。
- (2)時代に即応したカリキュラムおよび学生がさらに魅力を感じる教学制度。
  - ① 大学院、各学部・学科・コース、短期大学部が、上記戦略2を踏まえ、各々の特性を活かしたカリキュラムを検討する。
  - ② 教育品質を向上させるために、質の高い教員の確保・育成を継続的に図り、研究面でも成果を高める。
- (3)本人・保護者が長く満足する職業選択が可能な就職支援制度。
  - ① 一生継続して勉学する姿勢を持ち、社会的に自律した学生を育成する。
  - ② 低年次から卒業年次にわたる体系的なキャリア教育を推進すると同時に、日々の教育の中において、語学力とともにグローバル力を醸成するキャリア意識形成を図る。
  - ③ 留学と就職の連携強化を複数の担当組織が一体となり推進する。
  - ④ ①②③により、学生が納得のいく最適な進路選択と就職を実現する。

上記の入試面、教学面、就職面の3つを躍進させるために、全学が一体となって推進する。

### 4. 留学プログラム体系をニーズにあわせて進化させる

- (1) 学生の能力、将来への進路などに鑑み、学生の個性にあった留学が可能のように、また、留学と就職活動とが有効に連関するように、プログラム体系を検討し、他大学と比較して、常に先進性、優位性をもってリードする。そのために、留学前の教育、指導、留学中の支援、留学

後のフォローを徹底し、実社会において、留学での学びを活かせるように総合的に支援する。

- (2) 16単位以上取得させる留学生派遣については、質、量ともに他大学とは一線を画しており、長年培ってきた成果をさらに魅力あるものにする。
- (3) 2030年度には、ほぼ全員の学生が何らかの留学が可能ないように、海外インターンシップ・ボランティアを含めて留学の派遣数3,000人をめざす。
- (4) 学内の「内なる国際化」を推進し、国際通用性を高め、2030年度までに海外からの受け入れ留学生数を1,000人まで拡大する。

### 5. 学生からの満足度が高い支援を推進する態勢

- (1) 多様な学生の期待とニーズに合わせ、学生からの満足度が高い支援を「オールKansai Gaidai」として推進する。
- (2) 正課授業をはじめ、課外活動、留学、就職、日常の活動など、あらゆる場面において、大学全体がスムーズな一つの流れになるシステムを構築するために、教学組織と事務組織が相互に協働する態勢を取る。
- (3) 事務組織については、学生ファーストの視点と事務効率の両面から、事務制度全般、種々の制度などを日常的に点検する。
- (4) 学生支援の一例として、在校生の約半分が何らかの形で利用している奨学金について、政府が推進している「高等教育の修学支援新制度」への対応と同時に、本学独自の支給奨学金制度を充実させる。社会、経済等の実態や教育制度の変化に対応し、留学関係奨学金、成績優秀者に対する奨励的奨学金、経済的困窮者に対する奨学金など、既存奨学金の再編成および新設の奨学金を検討する。これらの支給奨学金の規模については、総額14億円、延べ2,000人をめざす。

### 6. ICT、AIの活用により教育研究環境の整備、事務部門業務の効率化を推進する

- (1) ICT、AIの活用について、教育研究環境の向上および事務部門業務の改革・効率化の両面から検討を進める。ますます発達するICT、AIの利活用により、学生の学び方、学生へのサービス機能、教育研究環境の高度化、組織の業務慣行変更・効率化など種々のイノベーションが可能になることが推測される。この有効活用の方向性を探る。

- (2) 事務部門の整備については、上記戦略5と連携しながら、権限の委譲や責任の明確化などにより組織力を強化すること、計画的な業務遂行や教育制度の充実により職員のマネジメント能力を高めること、これらを併せて検討する。

### 7. 時代の変化に応じて、新たな学部・学科等設置に取り組む

- (1) 次代に向けて、本学としての強みを最大限活かしつつ、他の学問領域との連携等も視野に入れた上で、時代を一步先取りした、専門職大学等も含めて、新たな学部や学科・コースの設置など、時宜にかなうように絶えず考察する。
- (2) 学部、短期大学部をあわせた法人全体の学生規模は、当面現行通りとする。

### 8. 広く社会に貢献する

- (1) 本学が有する知的財産やノウハウを活かすことにより、広く社会に還元し、積極的に社会貢献する。
- (2) 多くの人が訪日し、世界に対して発信するチャンスである「大阪・関西万博」に向けて、本学として発信可能なことや、協力態勢、企業・地域との連携など、有効に協働する方策を早急に検討する。
- (3) 「大阪・関西万博」のサブテーマになっている、2015年の国連サミットで採択されたSDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」にも貢献していく。
- (4) 「大阪・関西万博」が本学創立80周年と重なっていることから、この機に、世界各国で活躍する同窓生のネットワーク作りを推進する。

以上